



今回は、英語スピーチコンテストの報告です。

◇ スピーチコンテスト美濃地区大会

自分の想いを英語で発表するため、夏期休業前から取り組んで来ました。

日時：平成29年9月30日（土）

場所：武義高校

参加：1年生3名・2年生1名

結果：第 2 位 1年 佐藤 凜

審査委員特別賞 2年 市原 沙也加



内容：美濃地区各校からの参加者が日頃の練習の成果を十分に発揮し、多様な内容のスピーチを発表しました。本校の生徒は夏休みから練習を重ね5分程度のスピーチを堂々と披露してくれました。自分が英語を勉強するきっかけとなった話や、世界の時事問題から感じることなど、熱い思いを英語で伝えることができました。出場者は他校の生徒も含めてお互いに良きライバルでもあり、また尊重し合う存在でもあることを感じる事ができました。ライバルのスピーチを聞くことで多くの刺激を受け、次年度への目標を抱くことができました。



◇ スピーチコンテスト岐阜県大会

本校からは地区大会で第2位だった佐藤凜さんが10月28日に行われた県大会に出場しました。佐藤さんのスピーチは、**Today is not just another day!**というタイトルで、2年前に大切な祖父を亡くした経験から、家族の役割と、一人一人がかけがえのない存在であることを見つめなおす内容でした。何でもない毎日は、決して当たり前ではなく、幸せな瞬間の積み重ねであること。そして、この1分1秒が特別な時間であること。今日に感謝し生きていきたいという強い思いの伝わる、素晴らしいスピーチとなりました。

自分の壁と向き合うこと。

スピーチコンテストに出場するにあたって、出場生徒たちは、英語学習を続ける中での自分自身の課題に直面しました。例えば、ある生徒にとっては、原稿作成の段階で行き詰まり、またある生徒は、人前に立って英語を話す時に、自分の不甲斐なさに肩を落とししました。母国語でない言語で思いを伝えるには、内容と意味、そして音声の三位一体化を balan

スよくスピーチコンテストに出場するにあたって、出場生徒たちは、英語学習を続ける中での自分自身の課題に直面しました。例えば、ある生徒にとっては、原稿作成の段階で行き詰まり、またある生徒は、人前に立って英語を話す時に、自分の不甲斐なさに肩を落としました。母国語でない言語で思いを伝えるには、内容と意味、そして音声の三位一体化をバランスよく行わなければなりません。

きれいな英語をうまく話すだけでは、決して伝わりません。思いを、どう言葉にのせるか。そのためには、非言語コミュニケーションの能力も大切になってきます。コンテスト直前には、自分の話す英語を録音し、鏡の前で、まるで聴衆に話しかけるかのようにして、練習を繰り返す生徒たち。日本人英語話者としての、自分の理想像に向けて懸命に取り組む生徒からは、多くのプラスのエネルギーを感じました。うまくできないからこそ努力する、という当たり前の姿勢こそが、英語を話す基礎を培うことだと体験的に学べた素晴らしいコンテストとなりました。

